|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **学校経営推進費　事業計画書** | | | |
| **１．事業計画の概要** | | | |
| **学校名** | | | 大阪府立泉北高等学校 |
| **取り組む課題** | | | キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現） |
| **評価指標** | | | * 国内外大学の総合型選抜（AO入試・多目的評価入試等）合格者数 * 図書館における地域プロジェクト会議開催回数 * 課題研究における文献検索・グループワーク、アクティブ会議スペースとしての図書館活用回数 * 年間図書館利用者数、年間図書貸出数 |
| **計画名** | | | SHARE-BRARY プロジェクト ～SDGs未来高校をめざして～ |
| **２．事業計画の具体的内容** | | | |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | | | １　新しい時代のキャリア教育  ア 課題研究等の取組みを通して「自ら課題を見つけ、調査・研究し、分析・考察を行う」能力と「知り得た知識や情報を他の者にうまく伝える」能力の育成を図る。  イ 国内大学のグローバル化、海外の大学への進学ニーズに対応するとともに、AO入試や総合型選抜（課題研究、長期・短期留学論文等）への対応を図る。  エ 地域での体験的活動や外部機関との連携等を通して、今後の社会形成に積極的に関わろうとする意欲の醸成を図る。  ４　開かれた学校づくり  （１） 地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。地元堺市がSDGs未来都市であることを踏まえ、SDGsのNo11「住み続けられる街づくりを」の具現化に取り組む。  イ 堺市社会福祉協議会及び地元自治会、地元企業、NPO法人等との連携を深め、各種イベントや社会貢献活動等への積極的な参加をめざす。 |
| **事業目標** | | | 図書館という閉鎖的な空間をオープンにし、地域住民を含む誰もが利用できる図書館づくりを推進する。生徒の年間利用回数や読書冊数の引き上げを図るとともに、いつでも探究活動、読書、コミュニケーション、フィールドワークを行うことができるコミュニティスペースとし、この場をベースに生徒が身につけた能力を活かした大学の総合型選抜において、合格者増を図る。  また堺市と連携し、地元の児童・学生や地域住民が参加する「国際会議」や「プロジェクト会議」を開催し、SDGsのNo11「住み続けられる街づくりを」の具現化に取り組むことを通して、地域の「教育拠点校」としての機能・役割を果たし、「SDGs未来高校」の称号を獲得する。 |
| **取組みの概要** | **整備する**  **設備・物品** | | 図書館スペースのリノベーションに係る設備・物品  　本棚、フローリング張替、照明設備  　透明アクリル板を使用した探究活動及びプロジェクト会議用スペース |
| **取組内容** | **前年度** | * 図書情報部と広報部を統合して図書広報部を発足。くつろぎスペースを作り来館者の獲得を試みた。 * 探究的な活動（課題研究）の充実を図るとともに、取組みの記録についても指導し、その成果を進路実現に結び付ける進路指導を実施してきた。 * SGH事業（H27～R1）により学校のグローカル化を急進。堺市社会福祉協議会、地元自治体及びNPO団体、地域の民間企業との連携を深め、協働機会が増加した。 |
| **初年度** | （通年） 図書広報部によるHPでのSharebrary広報活動、読書習慣の強化  （７月） 地域との連携強化 （11月）課題研究による活用  （１月） Sharebrary ガイダンス職員研修、プロジェクト会議ボルネオ・カナダ海外研修事前研修  （２月） ビブリオバトル （３月）SDGｓ研修、Sharebrary活用実践報告会 |
| **２年め** | （通年） 地域連携（泉北ニュータウン活性化プロジェクト）会議（５－10回）、Sharebraryプロジェクト会議（３回）、図書広報部によるHPでのSharebrary広報活動、読書習慣の強化  （４月） 課題研究におけるSharebrary活用実践研修、全学年生徒にSharebraryガイダンス→以降実践活用  （５月～７月）プロジェクト会議ボルネオ・カナダ海外研修事前研修  （９月） 国際会議  （11月・１月）課題研究による活用  （２月） ビブリオバトル （３月）Sharebrary活用実践報告会 |
| **３年め** | （通年） 地域連携（泉北ニュータウン活性化プロジェクト）会議（５－10回）、Sharebraryプロジェクト会議（３回）、図書広報部によるHPでのSharebrary広報活動、読書習慣の強化  （４月） 課題研究におけるSharebrary活用実践研修、全学年生徒にSharebraryガイダンス→以降実践活用  （５－７月）プロジェクト会議ボルネオ・カナダ海外研修事前研修  （９月） 国際会議  （11月・１月）課題研究による活用  （２月） ビブリオバトル  （３月） Sharebrary活用実践報告会、Sharebrary Caféプロジェクト始動 |
| **取組みの**  **主担・**  **実施者** | | 企画運営： 課題検討委員会（校長・教頭・首席・科長・教務主任・進路指導主事）  図書広報部（部長＋７名）　探究委員会（探究主担＋10名）  実 施 者： 全教員 |
| **成果の**  **検証方法**  **と**  **評価指標** | | **初年度** | 1. 探究活動（課題研究）の成果を活かし、大学の総合型選抜の合格者を20名以上に増やす。【昨年度18名】 2. 国際会議・プロジェクト会議を３回以上開催する。 3. 探究活動・プロジェクト会議・国際会議・自習空間のための共有スペースとして活用することで図書館来館者を3,000名以上に増やす。【昨年度1,720名（１日平均約11名）】 4. 読書習慣を定着させ、図書貸出し冊数を1,000冊以上に増やす。【昨年度654冊（生徒一人当たり約0.8冊）】 |
| **２年め** | 1. 大学の総合型選抜合格者：25名以上 2. 国際会議・プロジェクト会議の開催：４回以上 3. 図書館来館者：3,500名以上　図書貸し出し冊数：1,500冊以上 |
| **３年め** | 1. 大学の総合型選抜合格者：30名以上 2. 国際会議・プロジェクト会議の開催：５回以上 3. 図書館来館者：4,000名以上　図書貸し出し冊数：2,000冊以上 4. 地元堺市より「SDGs未来高校」の称号を得る。 |